

# 老健 ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

VOL.

# 16

2024年6月



改善と挑戦に着手せよ！

特集

## 今求められる 認知症ケア



CONTENTS

02 道老健Topics 2024年度 研修会告知

06 ろうけん拝見! 08 支援相談員のリレーコラム / 老健大会告知

## Topics1

### 感染対策&災害防災対策のオンデマンド研修がスタート!

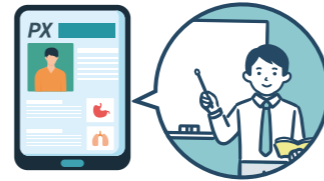
2024年度の介護報酬改定により、感染対策とBCP(業務継続計画)の設定による研修と訓練が年に2回義務付けられました。さまざまな取り組みが求められる昨今、効率的かつ学習効果の高い研修にするため、オンデマンド研修を取り入れることにしました。

#### ①感染対策研修

講師に、おなじみ塚本容子先生(北海道医療大学看護福祉学部教授)をお迎えし、オンデマンド研修に加えて学習ツールも活用できるよう準備を進めています。基礎知識から机上訓練が可能な動画も交え、塚本先生に不明点や深掘りしたい点なども確認できる双方向型の学びを提供する予定です。

#### ②災害防災対策研修

美唄市総務課危機管理対策室・杉本孝二先生を講師に、災害時の初動対応の際の準備や注意点をオンデマンドで学びます。



リリースは夏を予定。ぜひ一緒に学びましょう! 詳細は道老健HPをチェック! ▶

## Topics2

### 2024年度研修スケジュール

研修名	日時
認知症介護実践研修・リーダー研修	【講義】7月22日(月)~26日(金) 【実習】自施設:7月27日(土)~9月3日(火)、他施設:左記期間のうち2日間、修了9月4日(水)
認知症介護実践研修・実践者研修	【講義】9月10日(火)・11日(水)、9月24日(火)・25日(水) 【実習】自施設:9月26日(木)~10月23日(水) 他施設:左記期間のうち1日間、修了11月6日(水)
看護・リハ職交流研修(企画調整中)	未定
第31回北海道老人保健施設大会	10月12日(土)

## Topics3

### 道老健協のHPがリニューアルしました!

もうご覧になった方もいるかもしれませんが、4月から道老健協のホームページがリニューアルしました!最新の研修会情報がキャッチでき、そこからお申込みも可能になりました。また、当誌のバックナンバーおよび記事も組み込まれて読みやすくなり、他施設の情報を気軽に知ることができます。

ちなみにトップページの写真は、いくつかの施設からお写真をお借りして作ったもの。もしかしたら知ってる顔が見つかるかもしれません。

来年度からは、さらに旬の情報をアップしていく予定です。ぜひ、アクセスしてみてください。



こちらからチェック!

<https://doroken.jp/>



## 改善と挑戦に着手せよ!

### 特集

# 今求められる 認知症 ケア

2024年は認知症基本法の施行にはじまり、介護報酬改定では認知症チームケア推進加算が新設されるなど、これまで以上に認知症ケアへの対応の強化が求められています。新たな対応策を検討しつつ、あらためて基本に立ち返り、より良い認知症ケアに取り組みましょう。

### 良好な人間関係を構築し専門性発揮に努めよう

#### すべては円滑なコミュニケーションから

認知症ケアの根底にあるのは、すべて人間関係だというのが私の考えです。ユマニチュードやタクティール、バリデーションなど認知症ケアに有効とされるさまざまなテクニックもありますが、そもそも相手との人間関係が良好でなければ手を取ってマッサージなんてできません。ましてやオムツ交換や入浴介助といったプライベートに関わる行為であればなおさらです。相手はどんなに認知症症状があろうが、ちゃんと私たちケアする側のことを見ています。それなのに、自分を省みず介護拒否や暴言を吐くなど問題利用者扱いしてしまうことはないでしょうか。

相手が思うような反応をしないとき、ふと立ち止まって自らのふるまいを見直すこと。認知症状のある方だけに限りませんが、ケアはすべて自身の鏡となるものだと思います。



#### 多職種で情報収集・共有を

では良好な人間関係には何が大切かと言えば、礼儀・礼節をもって相手への敬意を表すことです。目を見て話す、立ち止まって挨拶をする、ほんの些細なことですが積み重ねることで人間関係は良い方向に変わるはずです。これはスタッフ間でももちろん同じです。

これを基本とし、あとはいかに専門性を発揮できるかどうかが問われます。たとえば認知症症状がある方でも、「手続き記憶」は残っていることが大半です。調理や楽器の演奏など長年の経験や繰り返しによって獲得し、身体で覚えていること、もっと言えば脳が覚えている動作のことを指します。相手によってどのような手続き記憶が残っているかを見極めるのが私たちプロの仕事です。

また、毎日同じ声かけをして上機嫌の反応が返ってきた人が、その日は不機嫌な対応だった場合、どうしていますか?寝れているか、水分

はとれているか、アセスメントのときだけでなく常に頭のなかで利用者さんの情報収集を行う状態であることも、私たちに求められる能力です。ここでは、多職種が異なる視点のもと当事者を中心にトライアングルのように見守ることで、より質の高いケアにつなげることができるでしょう。今回新設となった認知症チームケア推進加算で求められているのは、そのような視点だと思います。

2024年度は認知症に関わるさまざまな施策が打ち出されていますが、本来はこうした制度や法律なんてないほうが良いと思っています。ルールが設けられるということは、社会が未熟だから必要になってしまっている意味しているのではないのでしょうか。

今回の取り組みをきっかけに、あらためてケアや生活の質向上の実践に結び付けられるよう気持ちを引き締めて取り組んでいきましょう。

### Profile

みやざき なおと  
宮崎 直人さん

有限会社グッドライフ代表取締役・総合施設長  
一般社団法人北海道認知症グループホーム協会・会長

1985年、道都大学社会福祉学部社会福祉学科(現・星槎道都大学)卒業後、社会福祉法人幸清会に入職。グループホームの副施設長を経て、2001年、有限会社グッドライフ設立。グループホームの運営ほか、研修や大学講師の活動を通じ、『人』と『認知症』の支援の大切さを伝える。





## Case 1 家族の不安解消がカギ

社会福祉法人函館厚生院 ケンゆのかわ(函館市) 入所 150人(一般100床、認知症専門棟50床) 通所 53人

コンセプト 認知症を言い訳にせず、その人らしい生活を実現する!

### 認知症ケアのポイント

#### ①専門的知識を有する職員を計画的に増やす

現状、実践者研修課程修了者が3人、リーダー研修課程修了者が5人在籍。今年度中に、実践者修了者をさらに3人、認知症指導者研修修了者1人が加わる予定。「誰かが異動になって加算算定ができないという事態にならないよう備えは万全にしています」(畑中さん)

#### ②専門棟におけるグループごとのケア

認知症専門棟では資格者を含めたグループごとで認知症ケアを実施。ケースカンファレンスや勉強会も開催している。

#### ③在宅復帰前後の手厚い家族フォロー

在宅復帰が可能な利用者は、家族への支援が肝。在宅復帰するうえでの不安要素を聞き、要望に応じてベッド移乗やオムツ交換などのケア方法を集中的にレクチャー。在宅復帰中も困ったことはないか確認するほか、トラブル時はすぐに駆け付ける体制を整えている。

「認知症がある方でも、在宅で困るのは他の方と同じくケアにまつわる課題のため、その解消に努めています」(畑中さん)

### 加算について

認知症短期集中リハビリテーション ▶ 通所リハビリにおいては全員算定中。

#### 認知症チームケア推進加算

「I」の取得を目指し、目黒さんが認知症指導者研修を受講予定。北海道の推薦枠に見事選抜され、仙台で講習を受ける。「認知症の方が自分らしく過ごすためには、ケアする側の専門的な知識は不可欠です。専門的知識を持った職員を増やし、より良いチームで認知症ケアに取り組んでいきたいです」

左から  
認知症専門棟担当・目黒理沙さん、  
介護係長・畑中恵理子さん



### 成功STORY 自家製ジュースが人気を呼び笑顔を取り戻した女性

認知症状の進行とADL低下にともない不穏だったため、趣味だった園芸を取り入れて赤しそのタネを蒔いて育てるリハビリに挑戦してもらった。収穫物で職員と一緒にジュースも作って認知症カフェで提供したところ大好評を呼び、本人も大満足。

在宅復帰となりリピート利用を継続している。「人に喜んでもらえることがご本人の励みになったようです。今後も、その人らしい生活を支え、認知症があっても地域で支えていけるよう理解を広めていきたいです」(目黒さん)



## Case 2 適切な生活環境を多職種で整備

社会医療法人母恋 老人保健施設 母恋 入所 100人(一般75床、認知症専門棟25床) 通所 50人

コンセプト その人を知って寄り添うケアで、その人らしさを後押し!

### 認知症ケアのポイント

#### ①専門棟の効果的な運営

人員配置も手厚く、より個性性に特化できるのが専門棟の良さ。利用者の中で2、3人くらいの小グループができてくると安心して穏やかになるケースも多い。「安定したグループができれば、そのまま一般棟に移っていただくこともあります。安定した周辺環境は保たれたまま、病床稼働も担保できます」(佐々木さん)



#### ②安心な生活環境を多職種でつくる

短期記憶や見当識が低下していくなか、安心した生活環境を施設・在宅において整備することが大切。そのため、夜間の介護職員や在宅でのケアマネジャーとの情報共有も小まめに行っている。「生活リズムの安定に大きな影響を与える排泄に関わる調整が最も多いです。安心した生活はADL向上にもつながります」(高橋さん)

#### ③できること・できないことの気付きを促す

短い時間のなかで効果的なリハビリを行うには、本人の能力を知ることが最優先。生活するうえで課題となるような部分を認識し、代償方法も身に付けてもらいつつリハビリを行う。

### 加算について

認知症短期集中リハビリテーション ▶ 入所で10人程度を算定中。短期集中リハビリ加算をメインにプラスαで実施。

認知症チームケア推進加算 ▶ 「II」の算定を計画中。早急に研修受講をすすめ、体制を整備する。

介護課長  
佐々木悠佑さん



### 成功STORY ノンアルコールビールを提供する居酒屋レクを開催

認知症状に加えアルコール依存症の診断もあったことから、不穏が著しく施設の外に出ようとする利用者も。少しでも気が紛れるようにと、ノンアルコールビールを提供する居酒屋レクを開催したところ、

楽しそうに他の利用者さんと会話を楽しむように。「これ以来、部屋を出入りする際にドアの開け閉めをかって出してくれるなどの役割も見出し、落ち着いた生活を送ることができています」(佐々木さん)

## Case 3 多彩なリハビリで認知症を予防

医療法人晴生会 介護老人保健施設 グラーネ北の沢 入所 100人(一般50床、認知症専門棟50床) 通所 160人

コンセプト 安心して穏やかに過ごせるよう支援する!

### 認知症ケアのポイント

#### ①グループごとのケア

資格者を含めたグループごとに認知症ケアを実施。多職種で情報共有を行い、課題や改善策などを話し合っている。「在宅復帰するためには何が必要かといったことも議論しています。小規模で話すことで具体的な改善案が生まれやすい利点があります」(高野さん)

#### ②多彩なリハビリプログラムで認知症を予防

通所リハビリはMCI予備軍の危険性がある要支援者が多いが、そこか

ら認知症に移行しないようバラエティに富んだプログラムを用意。ゲームや調理、外出リハビリ、モルックなど楽しみながら身体を動かすメニューがそろっており、施設内通貨も導入している。「記憶に残るような楽しい空間を演出し、リハビリが苦にならないような工夫を凝らしています。なかには要介護から要支援に戻る利用者さんもいます」(安藤さん)



### 加算について

#### 認知症短期集中リハビリテーション

▶ 入所で算定中。「その方に適したプログラムを模索しながら構築していくことを大事にしています」(高橋さん)

#### 認知症チームケア推進加算

▶ 検討中。グループごとのケアは10年前から取り組んでおり、基盤は構築されている。

### 成功STORY 発症前まで従事していた造園の仕事プログラムを導入

認知症状に加え、脳梗塞で失語症も併発していた男性利用者。ベッドに横になったきりリハビリ拒否も見られたため、発症前まで従事していた造園の仕事プログラムを導入し、敷地内の木の選定をお願いした。弟子にもらったという剪定バサミを使い、リ

ハビリ動作や握力改善に努め、在宅復帰が実現。「剪定だけでなく、木の近くまでは坂や砂利道もある歩きにくい道のりなのですが自力歩行も可能になりました。施設長から感謝状も贈呈され、ご本人の自信になったようです」(高橋さん)



左から  
デイケア課主任・安藤篤志さん、  
リハビリテーション科主任・  
高橋秀峰さん、  
療養課主任・高野裕幸さん



## Case 4 アクティビティでワクワク感を創出

社会福祉法人創路創生会 介護老人保健施設 老健たいよう 入所 98人 通所 40人

コンセプト アクティビティを通じてその人らしく生活できる支援を!

### 認知症ケアのポイント

#### ①アクティビティケアで心の栄養も補給

6年前から高齢者アクティビティ開発センターの「アクティビティ・ケア宣言施設」の認定を受け、宮下さんをはじめディレクターやインストラクターが複数在籍する。幼稚園児へのプレゼント製作やパークゴルフ、お菓子作りといったその人ならではのプログラムを実施している。「生活歴やスタイル、好きなことに着目し、日常のなかでもワクワクやドキドキを感じられることを考案しています。活動前後の利用者さんの変化を捉え、次の関わりに活かしています」(宮下さん)



#### ②リハビリ評価のできることを見つける

アクティビティケアを行うには、注意が必要な場面も多い。そのために沼口さんからセラピストが事前に評価を行い、危険な範囲をしっかりと把握する。「『危ないからやめる』のではなく、できることを見つけて役割を担ってもらえるよう心がけています。達成することで、利用者さんだけでなく私たちの自信にもなっています」(沼口さん)



### 加算について

認知症短期集中リハビリテーション ▶ 入所・通所で算定中。

認知症チームケア推進加算 ▶ 検討中。認知症指導者研修は桶谷さんが取得、認知症ケア専門士も複数名在籍している。

左からリハビリ課長で作業療法士の宮下綾子さん、  
次長で理学療法士の沼口聡也さん、次長で介護福祉士の桶谷礼可さん



### 成功STORY 利用者の様子を時間単位で観察できるようシートを作成し、多職種で記録。

入所初日から帰宅願望があった利用者。その落ち着かない様子が家族の言葉も強くなり、さらに利用者は興奮状態に陥るといった悪循環に……。入所しても帰宅願望は収まらなかったため、不穏時の様子を時間単位で観察できるようシートを作成し、多職種で記録。結果、帰宅願望には理由があることがわかり、対応を行った。「飼っ

ていた犬に餌をやりたい、息子にご飯を作りたいときに帰りたいことが判明。犬の写真を持ってきてもらったほか、一緒にご飯をつくることで徐々に落ち着きを取り戻しました。ご家族にもたくさんコミュニケーションを取ってもらうよう働きかけたことで、どちらにも笑顔が増えました」(桶谷さん)



# ろうけん拝見!



利尻富士町・稚内市の老健施設にお邪魔しました。  
在宅復帰・在宅支援、レクリエーション、ケア全般、多職種協働など、各老健が重点的に力を入れている取り組みを紹介していきます。

## 利尻島老人保健施設

ICT化の推進と町の魅力を発信したい

入所定員 40人 通所定員 10人 その他型

利尻郡利尻富士町鬼脇字金崎332  
TEL 0163-89-3216

老健から利尻富士を望める



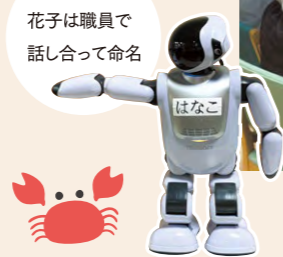
### 人気マスコットによる明るい場づくり

島唯一の町営老健として、2000年に開設した利尻島老人保健施設。何気ない日常のコミュニケーションやレクリエーションの場面で、利用者の人気を集めているのが「花子」です。彼女の正体は、23年に導入した介護ロボットのバルロ(富士ソフト製)。入所者と職員全員の顔や誕生日、好きななどを把握し、その人に適した声かけを行うといえます。管理係長の兵庫洋之さんは、「花子から『～さん、天気が良いのでドライブに出かけませんか』などと声をかけられると、やはり和んだ雰囲気になりますね。

体操のプログラムも内蔵されているため、簡単なレクリエーションの司会進行役として場を盛り立ててくれる存在です」と説明します。

さらに、パラマウントベッドの見守り支援システムも導入し、ケアの質向上や職員の労力負担の軽減にも着手。職員研修についてもオンライン動画を取り入れるなど、少しずつICT化を進めています。

花子は職員で話し合って命名



花子を囲んでレクリエーションを楽しむ利用者ら

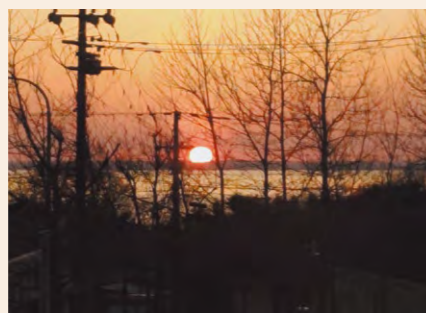
### 町営の特養と密な連携体制を構築

隣には同じく町営の特別養護老人ホームがあり、普段から小まめな情報共有をしています。「当施設から特養に退所する方はもちろん、特養のショートステイが満員であればこちらを利用いただくこともあります。保健センターも含めて月に一度は地域ケア会議も実施しているため、入退所前後の利用者さんの様子も切れめなく把握でき、町全体で見守る体制が自然とつくりられています」と兵庫さん。昨年は特養と事業継続計画(BCP)の連携協定も結び、訓練などの具体的な取り組みを協同ですすめるそうです。

漁業関係の仕事に従事する町民が多いため、ウニ漁の繁忙期となる6月から9月までは入所者が増加し、多忙を極めます。しかしながら地域柄、特に人材確保については唯一のセラピストである理学療法士を国民健康保険病院からの出向、

看護師については派遣職員を頼みにしているという厳しい状況です。そこで人材確保のために、松谷大輝施設長と特養の園長、保健センター所長、町の福祉課長の4者で札幌まで年に2回出向き、専門学校や大学などで施設のPRに励んでいるそうです。

「就労奨励金や島民割引といったお得な情報はもちろんですが、利尻島の魅力は自然の豊かさ。利尻島の魅力を伝えて、興味を持ってくれる学生を増やしたいですね」(松谷施設長)



施設内から美しい朝日を一望できる



外観

### 事務連ならから質問です

**Q** 人材難は頭の痛い課題です。だからこそICT機器も業務を担ってくれる貴重な同僚だと思っております。ICT機器を導入するにあたり、大切にしているポリシーを教えてください。

**A** 入所者ファーストのケアを行い、寄り添う時間を増やすこと、そしてスタッフの負担軽減を促進できることをモットーに、ICTの導入をしています。

## 社会医療法人禎心会 老人保健施設ら・ぷらーさ

ネイルやご当地体操で心機一転のチャレンジ

入所定員 100人 通所定員 70人 加算型

稚内市栄1丁目24番2号  
TEL 0162-29-4322

左から森さん、相談課課長・保坂 寿美恵さん、療養長・佐藤裕喜子さん、松田さん、小原さん



### 福祉ネイルで気持ちも晴れやか

日本最北端の老健となる、ら・ぷらーさ。同施設では、2024年からは新たに2つの取り組みをはじめます。

一つは、認知症棟における福祉ネイルの導入です。認知症専門棟主任の森春奈さんが担当を務め、有資格者を招いて余暇活動の時間に行っています。そもそも福祉ネイルとは、ネイルに関わる技術のほか高齢者の身体の特長や病気の知識について認定を受ける民間資格のこと。ここでは、一人の利用者に約20分かけて、丁寧なカラーリングと1本の指には好みの絵や柄のアートを描くネイルを提供しています。これまで3回、計12人の利用者に提供したところ、驚くようなセラピー効果が

発揮されているそうです。「食欲がなく点滴を受けて毎日ベッドに寝ていた利用者さんが、ネイルを受けているときは楽しそうに昔話をしたり、『ラーメンが食べたい』と食欲を訴えるなど気分が高揚しているのがわかりました。その日に早速、ラーメンを



福祉ネイルを楽しむ利用者

提供したところ美味しく召し上がっていて驚きました」と森さん。ほかにも、笑顔が増えた利用者、夜間落ち着いて眠るようになった利用者もいるなど想定以上の効果が見られたことから、今後も継続して取り入れていく予定です。



ネイルを見ながらおしゃべりに花を咲かす

### 地元愛にあふれたご当地体操

二つ目の取り組みは、宗谷地域のご当地体操「こうやってそうやって体操」を取り入れた通所リハビリでのポピュレーションアプローチです。この体操は、軽快なメロディーに子どもたちの元気なコーラス、宗谷の風景が浮かぶ歌詞をのせた曲と、難易度に応じた複数パターンの動きが振り付けされた宗谷地域オリジナルのもの。リハビリテーション科主任の小原聖さんは、「『てっぺんめざして〜』で上に向かって手を突き上げる決めポーズが一番盛り上がる瞬間です」と説明します。きっかけは、通所リハビリの個別リハビリでは利用者が受け身になってしまい、主体性を引き出しきれないという課題があったこと。「今のところ楽しみながらリハビリできており好評です。

会を重ねるごとに習慣化されて、時間になると利用者で互いに声をかけあって参加するなど主体性も見られています」と小原さん。

コロナ禍を経て、以前のような活気を少しずつ取り戻しつつある同施設。事務課課長の松田孝太郎さんは次のように抱負を話します。「長く社会的交流が閉ざされて身体機能や気持ちが落ち込んでいる状態だった利用者さんにも積極的なケアを提供していきたいです。大堀具視先生が提唱する『動き出しは本人から』の導入や、今年度新設となった生産性向上推進体制加算や認知症チームケア推進加算なども算定できるよう取り組んでいきたいです」



最も盛り上がる「てっぺん」ポーズ



習慣になりつつある「こうやってそうやって体操」

### 事務連ささきから質問です

**Q** 日本最北端の老健として海のイメージが強くなりますが、何か地域の特性を生かしたイベント等を開催されていますか。

**A** コロナ前は、宗谷岬など観光名所を巡るドライブツアーを行っていました。7月から通所リハビリを再開予定ですが、7月30日に寄港する豪華客船「飛鳥II」に向けて何らかの企画も準備中です。



## あなたは何代目？

はじめましての方も、ご無沙汰の方もエスポワール北広島6代目ソーシャルワーカーの佐藤幹博と申します。縁あってこのような執筆の場をいただき大変恐縮しておりますが、拙い文章に少しお付き合いください。

この仕事に就いた20年くらい前の事ですが、入所の相談をいただくとふたつ返事で「空いております」と答えていた私に、当時の事務部長から「そんなに簡単に対応するな。たとえ空いていたとしてもなんとか空けますという姿勢をパフォーマンスするものだ」と言われた事がありました。

しかし同じ日にソーシャルワーカーの上司に入る入所相談に耳を傾けると、「空いてますよー。迎えにも走りますよー」との対応。私とは同じようで同じではなく、見栄は張らずとも相手への誠意を感じる対応は、新人だった私に気付きを与えてくれました。

医療福祉課長 佐藤 幹博

介護老人保健施設 エスポワール北広島



その上司の人脈のおかげで、先々代を筆頭にかつて当施設でソーシャルワーカーとして働いていた方々とお会いする機会を頂戴したことがありました。以来、私の知らないエスポワールについて教わり、困った事があれば相談させて頂ける関係が続けさせていただいております。今となっては感謝しかありませんし、私だけの大切な人財であります。

一歩でも先代の皆さんに近づけるようこれからも精進して参ります。相談があれば「空いております。明日でも遅くないですか？もちろん、お迎えにあがらせていただきます」と、今は亡き上司の言葉を繰り返すそんな日々を過ごしております。

NEXT ▶

次の執筆者はフォーシーズン真駒内の西野健太さんです。下腿三頭筋を語らせたら右に出る者はおりませんし、老健を語らせたら左に出る者もおりません。とっても熱心でユーモアがある方なので楽しみにしてください。

### INFORMATION

# 第31回北海道老人保健施設大会

日時 2024年 **10月12日 土** 会場 **ホテルエミシア札幌** 札幌市厚別区厚別中央2条5丁目5-25

大会テーマ

**多職種協働とICT技術の融合による未来型老健**  
～時代を見据えた先駆的な老健を目指す～

基調講演

多職種協働とICT技術の融合による  
未来型老健とは(案)

講師 松原 由美氏 早稲田大学人間科学学術院 教授

シンポジウム

多職種協働とICT技術の融合による未来型老健  
～時代を見据えた先駆的な老健を目指す～

座長 松原 由美氏 早稲田大学人間科学学術院 教授

シンポジスト/Coming Soon

演題発表 **40題**

演題登録締切  
2024年  
**8月20日 火**  
正午まで

演題抄録締切  
2024年  
**9月24日 火**  
正午まで

参加費

大会 **3,000円**(1名/税込)  
懇親会 **5,000円**(1名/税込)

お申し込みおよび登録はコチラから  
参加登録締切 **2024年9月24日 火 正午まで**



お問合せ先

大会の運営等の基本事項について

第31回北海道老人保健施設大会事務局  
〒059-0463 登別市中登別町 24番地113 介護老人保健施設 グリーンコート三愛  
TEL 0143-83-0111 FAX 0143-83-0113

演題申込、参加申込、抄録原稿送付について

第31回北海道老人保健施設大会登録事務局  
担当:田畑 TEL 090-5225-9425